

概要・背景

四国中央市は四国のちょうど真ん中、香川県・徳島県・高知県に隣接した愛媛県東端に位置し、昔から紙産業によつて発展してきた人口10万ほどの『紙のまち』です。当商店街はその四国中央市の中でも東の端に位置しており、平成の大合併までは旧川之江市の中心市街地として、地元住民が行き交う（地域密着型の商店街）です。平成五年にはアーケードカラー舗装を整備しなおし、年間を通して各種イベントも継続的に実施しております。

しかしながら、イベント開催時だけはいつも街は人で溢れるものの、普段の日常的な賑わいにはなかなか繋がらず、その対応を考へる時期が続いておりました。更に郊外には大型ショッピングセンターの進出も相次ぎ、モーターゼーションの発達、住民の高齢化などにより、毎年来街者の減少傾向に歯止めが効かない状況でした。

取り組みのきっかけ

そんな中、平成一六年に近隣の二市一町一村が合併し『四国中央市』が誕生する際の合併記念イベントの一環として『当商店街で何かできることはないか?』と協議したところ、お互いのまだ知らないところ（名所・文化・イベントなど）をお知らせするスペースを、空き店舗を利用して開設しようということで『情報発信基地「四国中央ドットコム」』を立ち上げました。ただ地域

の情報などを紹介するだけでなく（それだけではスグに飽きられてしまうと思ひ）、個人の情報発信もできるものとして、当時はまだ珍しかった『レンタルボックス』を併設いたしました。いま思えば、このレンタルボックスがその後の事業の展開に繋がってきたものと感じています。

コミュニティ施設へと発展

平成一七年からは、そのレンタルボックスに出品して頂いている作家さんや主婦などによる体験教室などが空きスペースで徐々に催されるようになり、ピース細工・

革細工・水引細工・フラワーアレンジメント・編み物・切り絵・アロマテラピー等、様々な教室が行われました。

中には受講生がなかなか集まらず苦労したのもありましたが、人が集まりそれによるコミュニティ



「レンタルボックス」は現在、実店舗に進展…

特集③ 空き店舗の活用

人が住み、育ち、学び、ふれあえるまちを目指して



川之江栄町商店街振興組合 副理事長 高原 茂 (四国中央市)

この流れと並行して、二階はフリースペースとして写真展などのイベントに時折利用していただけたのですが、小さなお子さん連れのお母さんなどが商店街に來られた時の休憩（くつろげる）スペースとして利用して頂けないかと考えていました（郊外型の大型ショッピングセンターなどのように、気軽に子ども連れでこの街へ来てほしいという思い）。そこで経済産業省の『少子高齢化対応中小商業活性化支援事業』の採択を受け、平成一八年に国からの補助金支援を頂き、二階に『親子のくつろぎスペース「ここにこルーム」』を整備しました。

特集

地域の遊休施設を活用したまちづくり

活動の内容・現状

現在一階では、午前・午後にはパソコンシ

この事業を通して気付かされたひとつに、当地域には紙の地場産業があるため転勤により来られる方、また結婚によりこの地に来られた方、そんな若いお母さんたちには知り合いや親戚はもろろのこと友人もなく、昼間は子どもと二人きりで過ごしていて、地域の情報がわからないだけでなく育児に悩んだ時に身近に相談相手がいないう等、子どもが入園するまでの期間に問題点が特に色濃く現れています。
定年後のシニア世代と共に、彼女たちにも地域の中に居場所がなかったということです。

地域のお困りごとが分かる

パソコン シニアクラブ(週に6教室あります)



当初は午前中二〜三時間のみスタッフを配置した限定的な開設でしたが、利用者には大変好評で、利用者数も予想以上になってきたことから、平成一九年より開設時間を午後にも拡げることになりました。



「にこにこルーム」ねんねクラブ



「にこにこルーム」英語であそぼ

ニアクラブ・紙バンド手芸サークル・虹色クラブ・オカリナ・ピース細工などでシニア世代を中心に毎日入れ替わり立ち代わりサロンのように利用して頂いています。また二階も毎日のように色々なイベントを織り込みながら保育士のスタッフを二名配置していますが、お母さんたちの相談に乗るなど頼りにされています。一日平均で二十組以上の親子連れが訪れており、時には行政や専門家へ繋ぐこともあります。最近ではお母さんたちの自主サークルも幾つか立ち上がってきました。



紙バンドサークル(週に3教室あります)



みんなの広場「四国中央ドットコム」

善してきたことよって、現在では(みんなの広場)として利用者も多く、毎日いろいろな世代の方々が賑わい、文字通り「どつと混む」ようになりました。とにかく、「その時その時でできることにベストを尽くしている」と何か次への道筋が開ける...それが今特に感じていることです。
この他にも、別の空き店舗を利用した様々な事業に取り組んできましたが、現在は「コミュニティカフェ(仮称)」を今年度内開設に向けて奮闘しています。

最後に

動にまで及んでいきます。最近では市内外を問わず多くの方々に「地域コミュニティの拠点」として認識されるようになりまし